

# 浜松市沿岸域防潮堤整備に係る自然環境検討委員会

## 中間報告【概要版】

平成 26 年 11 月

### 1 趣旨

「浜松市沿岸域防潮堤整備に係る自然環境検討委員会」は、平成 25 年 9 月 13 日の設置から第 3 回の平成 26 年 9 月 3 日までに 3 回の議論を重ね、防潮堤整備を進める上で必要な自然環境対策の方針を取りまとめた。これを期に、その方針を中間報告として取りまとめる。

平成 26 年 9 月から防潮堤本体の工事が始まり、今後、防潮堤整備は早期完成を目指して推進されていく予定である。本事業の推進にあたっては、この報告に沿って、自然環境対策が着実に進められることを望む。

### 2 検討方針

本委員会は、防潮堤事業が安全・安心な地域を後世に引き継ぐのと同じく、それに伴う自然環境対策も、浜松市沿岸域がかかえる豊かな自然と懐かしい景観を「ふるさとの原風景」として後世に引き継ぐべきものであるとの認識に立つ。防潮堤整備による生物多様性ホットスポットへの影響を軽減する対策だけでなく、失われた自然環境の復元・再生につながる対策を検討する。

### 3 保全目標種及びその対策

#### 3-1 オオタカ

オオタカの繁殖期に営巣中心域内での工事実施を避けるなど、繁殖への影響をできる範囲で低減する対策が望まれる。

#### 3-2 アカウミガメ等

砂浜をできる限り損なわないなど、アカウミガメ等の産卵環境への影響をできる範囲で低減する対策が望まれる。

#### 3-3 海岸湿地に特有な貴重種

防潮堤は、特に多くの重要な動植物種が確認されている 2 つの池を回避して設置するとともに、環境が変化した場合に備えて現在の環境を代償する池を設けることが望まれる。新設する池には外来種が侵入するリスクがあるため、その対策も実施すべきである。

#### 3-4 カワラハンミョウ

防潮堤の配置計画にあたっては、幼虫の高密度分布または個体数の多い場所をできる限り避けることを望む。又、防潮堤にかかる生息地では、幼虫の移設を検討する。